

近現代日本における「師弟関係」とその変容

○稲垣 恭子 (京都大学), 野口 剛 (京都大学), ○山崎 貴子 (京都大学大学院)

1. はじめに

「師弟関係」というと、師と弟子の間の尊敬や愛情をともなう全人格的で親密な関係というイメージの一方で、厳格な上下関係を前提とした抑圧的な関係として思い浮かべられることもあるだろう。こうした両極の見かたの背景には、教師—生徒関係についての基本的なとらえかたのちがいが存在している。

教師—生徒関係を標準化された知識や技能の伝達を媒介とする機能的な役割関係を中心においてみると、師 (教師) と弟子 (生徒) の間の個別的人格な関係をともなう「師弟関係」は、前近代的で非合理的な関係として否定的にとらえられることが多い。実際、このような意味での「師弟関係」が、機能的で合理的な社会関係が一般化している現代社会のなかでは後退しつつあることはいうまでもない。学校教育においても、教師と生徒 (学生) の間の全人格的・情緒的な絆をともなう「師弟関係」は、小学校から大学にいたるまで、教師—生徒 (学生) 関係のなかからほとんど消失しているようにみえる。むしろ、そうした関係は、教育の平等や公平性を重視する近代的な教育観やそれを前提とした教育実践と矛盾するものとして忌避されてきたともいえるだろう。

一方、教師と生徒の関係における愛情や尊敬といった情緒的なつながりを重視するみかたを前提にすれば、役割関係としての教師—生徒関係だけでは冷淡で無味乾燥なものにみえることになる。学校教育をめぐるこのような視点からの学校批判や教師批判は、これまでも繰り返し出現している。熱血教師を主人公とするドラマの流行や、学校時代の回想や回顧にみられる「師弟関係」へのノスタルジアなども、こうした文脈のなかで理解することができる。最近では、教師バッシングやモンスターペアレンツの出現など教師の権威や信頼の

低下が問題として浮上していることも無関係ではないだろう。

しかし、教師—生徒関係の特質とその社会的意味を明らかにするためには、そのいずれか一方に依拠した現状分析だけでは十分ではない。現実の「師弟関係」は、合理的・機能的な関係の側面と感情的・情緒的な人格関係としての側面が重なり合って形成されている。そのバランスがとれ一体化している場合には「師弟関係」は安定しているが、バランスが崩れ齟齬が生じてくると葛藤やジレンマが顕在化することになる。本研究は、「師弟関係」を機能的・合理的な関係と情緒的・人格的な関係の両方を含んだ関係としてとらえ、近現代日本における「師弟関係」の特質と変容の過程を歴史社会学的な角度からとらえなおそうとする試みである。

このような視点にたった研究のひとつのながかりとして、本報告では『私の履歴書』をとりあげ、そのなかで記述されている「師弟関係」の思い出に焦点をあてて分析・考察したい。

2. 調査対象と方法

2-1. 調査対象

調査対象：日本経済新聞紙上で1956年3月から現在まで継続的に連載されている「私の履歴書」に掲載された547名の自伝

「私の履歴書」：

連載期間：連載当初…1週間 / 人

1987年以降…1ヶ月約30回 / 人

掲載された人物：政治・経済・文化の各分野で活躍した成功者、ほとんどが男性

具体的資料：

日本経済新聞社編『私の履歴書 経済人』1-38巻

日本経済新聞社編『私の履歴書 文化人』1-20巻

日本経済新聞縮刷版1982-2003年

* 『私の履歴書 経済人』21-38巻に掲載された人物を除くすべての人物

日本経済新聞縮刷版 2004-2008年

本資料は、1人分の記述が厚いことから質的分析をおこなう際にすぐれたデータであるとともに、一定の形式に沿って書かれているため共通の変数の抽出が可能であり量的分析にも適している。よって本資料は、近現代日本における師弟関係について質的・量的両面から分析できるものである。

また本報告では回顧データを扱うが、その際、回顧データは現在の自分に影響のある主観的な思いの構造であると同時に、内容によっては実態も含まれている。分析に際してはそのことに配慮してデータを扱っている。

なお、女性27名はケース数が少ないために、外国人男性6名は研究の射程から外れるために、本報告でおこなう量的分析のデータからは除外している。また、現時点では自伝のデータ化作業の途中であるため、全547名中データ化の完了した429名分の自伝を分析に用いている。発表当日には全てのデータを用いた分析結果を提示する予定である。

2-2. 方法

師弟関係の量的分析の手順

自伝における師弟関係の割合は、次のような手順で算出した。まず、各著者の自伝全体のなかから、著者にとって「先生」「師匠」と呼べる人物についての思い出の該当箇所を抜き出した。

その際、師弟関係の質の違いを分析に反映させるために、該当した師弟関係を「学校教育機関の先生」「習い事・芸事の先生・師匠」「その他の恩師」の3種類の師弟関係に分類した。

次に、それぞれについて該当箇所の行数を数え、それを自伝全体の行数で割った割合を「人生に占める師弟関係の思い出率」とし、「学校教育機関の先生」、「習い事・芸事の先生」、「その他の恩師」の別に算出した。行の途中で文章が終わる部分もあるが、文章が行の半分を超えている場合は1行とカウントし、半分を超えていない場合は0行とカウントした。また、上が写真で、下半分が文章のページに先生の思い出記述がある場合、行数に×0.5をして計算した。

3. データの概要

表1. データの概要

文化人・経済人	度数	%
文化人	169	39.3
経済人	261	60.7
合計	430	100.0
本人職業		
会社経営者	249	57.9
公務管理職	22	5.1
専門職	45	10.5
文筆	41	9.5
芸能・芸術	73	17.0
合計	430	100.0
父職業		
会社経営者	57	13.6
会社管理職	16	3.8
その他管理職	1	0.2
公務管理職	31	7.4
医師	20	4.8
大学教授	7	1.7
教育(大学教授以外)	11	2.6
その他専門技術	32	7.7
芸能・芸術	26	6.2
事務職	26	6.2
自営業	53	12.7
その他営業販売職	19	4.5
富農	21	5.0
その他農林漁業	39	9.3
生産・製造業	10	2.4
その他生産製造業	17	4.1
その他	32	7.7
合計	418	100.0
欠損値	12	
世襲		
一代目	352	83.6
二代目以降	69	16.4
合計	421	100.0
欠損値	9	
学歴		
高等教育以上	334	78.2
中等教育	40	9.4
初等教育	47	11.0
その他	6	1.4
合計	427	100.0
欠損値	3	
国(公)		
国立	242	56.7
私立	87	20.4
その他	98	23.0
合計	427	100.0
欠損値	3	
学歴高等教育以上：専攻		
人文科学	40	12.0
社会科学	188	56.3
自然科学	26	7.8
工学・農学	54	16.2
芸術	14	4.2
その他	12	3.6
合計	334	100.0
高等教育以外	93	
欠損値	3	
学歴高等教育以上：学校歴		
東京帝大(東京大学含)	133	39.8
京都帝大(京都大学含)	25	7.5
他帝大(新制大学含)	15	4.5
東京高商(一橋大学含)	20	6.0
早稲田系統	25	7.5
慶応系統	36	10.8
他高等教育機関	80	24.0
合計	334	100.0
高等教育以外	93	
欠損値	3	
出身地		
東京市	99	24.8
5大都市	51	12.8
市	79	19.8
町村	166	41.5
外地・外国	5	1.3
合計	400	100.0
欠損値	30	
幼少時生活程度		
貧	56	13.7
中	108	26.4
富	245	59.9
合計	409	100.0
欠損値	21	

4. 人生に占める師弟関係の思い出の全体的傾向

4-1. 人生に占める師弟関係の思い出

表2. 人生に占める師弟関係の思い出 (%)

N=429	平均値	標準偏差
学校教育機関の先生	3.1	3.8
習い事・芸事の先生	1.1	3.4
その他の恩師	1.1	3.3
合計	5.3	5.9

まず、全体的な師弟関係の思い出の構造を検討しよう。人生に占める師弟関係の思い出率を学校教育機関の先生と習い事・芸事の先生、その他の恩師別に算出した結果を表1に示す。全体としては、人生に占める師弟関係の思い出率は5.3%であった。現在の私の履歴書は1回分が約原稿用紙3枚半(1400字)で30回の連載であり、合計すると1人の自伝はおおよそ原稿用紙105枚分の長さとなる。よってこの5.3%という割合は、現在の私の履歴書の長さで原稿用紙の枚数に換算すると、原稿用紙約5.5枚分に相当する長さである。

その内訳を師弟関係の種類別にみると、最も思い出率が高いのは学校教育機関の先生との思い出率であった(3.1%)。習い事・芸事の先生との思い出率とその他の恩師との思い出率は1.1%で同値であった。したがって師弟関係においては、学校教育機関の先生の位置が相対的に大きいといえよう。

4-2. 人生に占める師弟関係の思い出世代別変化

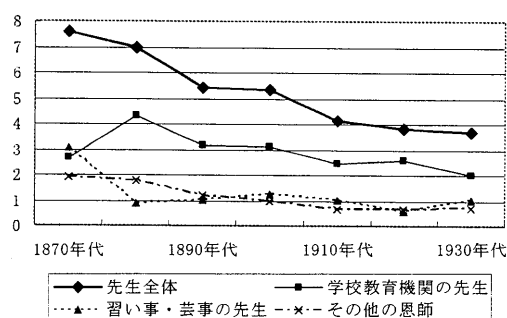


図1. 人生に占める師弟関係の思い出の変遷 (%)

次に、人生に占める師弟関係の思い出率の世代(出生コホート)別変化を検討した。その結果を図1に示す。なお、なお、1860年代・1870年代生まれコホートと1940年代後半生まれコホートは文化人・経済人ともにケース数が10ケース以下であるためその年代のデータを図から除

外し、説明・解釈を省略した。

全体的にみると、人生に占める師弟関係の思い出率は世代が若くなるにつれて低下し希薄化していく様子が見て取れる。師弟関係の種類別に見ると、なかでも学校教育機関の先生との思い出が希薄化していく度合いが大きい。その一方、習い事・芸事の先生、その他の恩師は思い出の希薄化傾向が緩やかであった。

このように、人生に占める思い出の構造においては学校教育機関の先生との思い出の比率が高く、その世代による変動も大きいことが明らかとなった。そのほか、人生に占める師弟関係の思い出の構造を明らかにする上で、人生のどの段階における思い出が多いのかということも重要な点として挙げられるが、この点に関する結果は当日の発表で示すこととする。

5. 師弟関係の思い出の属性別差異

これまでは師弟関係の思い出の構造を全体的に、みてきたが、ここでは、それが属性によって異なることが考えられるため、属性別に師弟関係の思い出の差異を検討した。データの概要で示したように属性別に検討可能な変数は、文化人・経済人、本人職業、父親職業、世襲、学歴、また最終学歴の国立・私立、最終学歴を高等教育以上に限定すると、専攻、学校歴、そして出身地、幼少時生活程度の10項目がある。

これら全てについて師弟関係の思い出率の差異を検討したが、属性別に大きな差異があった変数は文化人・経済人、本人職業、本人学歴、最終学歴が高等教育以上の人物における学校歴であった。その結果を以下に示す。

5-1. 文化人・経済人別

表3. 文化人・経済人別人生に占める師弟関係の思い出 (%)

	学校教育機関の先生	習い事・芸事の先生	その他の恩師	計	N
文化人	3.8	2.5	1.3	7.6	169
経済人	2.6	0.2	1.0	3.9	260
合計	3.1	1.1	1.1	5.3	429

文化人・経済人別にみた場合、全体的にみても、先生の種類別にみても、文化人の方が経済人よりも人生に占める師弟関係の思い出率は高い。

5-2. 本人職業別

表 4. 本人職業別人生に占める師弟関係の思い出 (%)

	学校教育機関の先生	習い事・芸事の先生	その他の恩師	計	N
会社経営者	2.6	0.2	1.0	3.8	248
公務管理職	4.0	0.2	0.8	5.1	22
専門職	7.7	0.7	1.2	9.6	45
文筆	3.2	0.5	1.5	5.2	41
芸能・芸術	1.8	5.0	1.2	7.9	73
合計	3.1	1.1	1.1	5.3	429

職業別にみると、専門職と芸術芸能で人生に占める師弟関係の思い出率が高く、専門職は特に学校教育機関の先生との思い出率が高く、芸術芸能は習い事・芸事の先生との思い出率が高い。一方で会社経営者は思い出率が低い。

5-3. 学歴別

表 5. 学歴別人生に占める師弟関係の思い出 (%)

	学校教育機関の先生	習い事・芸事の先生	その他の恩師	計	N
高等教育以上	3.8	0.4	1.1	5.3	333
中等教育	1.3	2.3	1.4	5.0	40
初等教育	0.4	3.6	1.0	5.0	47
その他	0.5	10.6	2.8	14.0	6
合計	3.1	1.1	1.1	5.3	426

学歴別にみた場合、ケース数の少ない「その他」を分析から除くと、全体的には学歴別で先生との思い出率に大きな差はない。しかし先生の種類別にみた場合には学歴別で思い出率に差があった。

学校教育機関の先生との思い出率は学歴が高くなるにしたがって高くなる。一方、習い事・芸事の先生との思い出率は学歴が低くなるにしたがって高くなっている。その他の恩師に関しては学歴別で見たときに差異はみられなかった。

5-4. 学校歴別（最終学歴高等教育以上）

表 6. 学校歴別人生に占める師弟関係の思い出 (%)

	学校教育機関の先生	習い事・芸事の先生	その他の恩師	計	N
東京帝大（東京大学含）	3.9	0.2	0.7	4.8	133
京都帝大（京都大学含）	3.7	0.5	2.3	6.5	25
他帝大（新制大学含）	5.0	0.6	1.2	6.8	15
東京高商（一橋大学含）	3.0	0.2	0.9	4.1	19
早稲田系統	4.4	0.8	3.8	9.0	25
慶応系統	3.9	0.4	0.5	4.7	36
他高等教育機関	3.2	0.7	0.8	4.7	80
合計	3.8	0.4	1.1	5.3	333

注）最終学歴高等教育以上のケース

最終学歴が高等教育以上のケースに限って学校歴別にみた場合、人生に占める先生との思い出率に差があった。全体的にみると、人生に占める先生との思い出率が高いのは、順に早稲田系統、他帝大、京都帝大であった。一方、思い出率が低いのは、順に東京高商、慶応系統、他高等教育機関、東京帝大であった。先生の種類別にみると、学校

教育機関の先生との思い出率は他帝大と早稲田系統で高く、東京高商と他高等教育機関で低かった。習い事・芸事の先生との思い出率には学校歴別に大きな差はなかった。その他の恩師との思い出率は、早稲田系統と京都帝大で高く、慶応系統と東京帝大で低かった。

5-5. 学歴×本人職業別

表 7. 学歴×本人職業別人生に占める師弟関係の思い出 (%)

学歴	本人職	学校教育機関の先生	習い事・芸事の先生	その他の恩師	計	N
高等教育以上	会社経営者	2.9	0.2	1.0	4.1	206
	公務管理職	4.0	0.2	0.8	5.1	22
	専門職	7.7	0.7	1.2	9.6	45
	文筆	3.6	0.3	1.5	5.4	36
	芸能・芸術	4.0	1.8	1.3	7.1	24
	合計	3.8	0.4	1.1	5.3	333
中等教育以下	会社経営者	1.0	0.2	1.3	2.5	42
	公務管理職	—	—	—	0	0
	専門職	—	—	—	0	0
	文筆	0.6	1.3	1.6	3.5	5
	芸能・芸術	0.7	6.7	1.2	8.6	46
	合計	0.8	3.5	1.3	5.6	93

学歴を高等教育以上と中等教育以下に分け、さらに職業別に人生に占める先生との思い出率を検討した。公務管理職と専門職には中等教育以下の人物は存在しないため、分析を省略した。

まず、会社経営者では学校教育機関の先生との思い出率が学歴によって異なり、高等教育以上の人物の方が学校教育機関の先生との思い出率が高い。文筆も学校教育機関との思い出率について会社経営者と同様の傾向を示すが、中等教育以下の文筆では高等教育以上の文筆に比べて習い事・芸事の先生との思い出率の割合が高くなっている。芸能芸術は高等教育以上で学校教育機関の先生の割合が高いのに対して、中等教育以下では習い事・芸事の先生との思い出率が高かった。

6. 当日の報告

当日は、これらの基礎的なデータをもとにさらに分析を進めて、近代日本における師弟関係の特質を明らかにするとともに、現代の師弟関係についても考察する。